

全国で「戦争法 NO!」の声

滋賀 「許さない！戦争する国づくり県民集会」



6月14日、滋賀県大津市膳所公園で「許さない！戦争する国づくり6・14県民集会」が開催されました。

会場には工夫を凝らしたプラカードや、横断幕、憲法を記したTシャツなど平和をアピールするものを携えて800人もの参加者で溢れました。

司会をつとめた民医連の福塚友見さんが明るく楽しく集会を進行しました。一部ではナオユキさんによる憲法漫談で会場全体が「大爆笑」に包まれながら改めて憲法と平和を考える時間になりました。

二部では呼びかけ人を代表して玉木昌美弁護士（共同センター代表）があいさつ。日本共産党の宮本たけし衆議院議員が基調報告を行い、国会論戦の現場を語りました。リレートークでは、宗教者として真宗大谷派長浜9条の会の對月慈照さん、あいば野での合同演習反対に長年とりくまれているあいば野運動連絡会から泉勝男さん、女性の立場からとして新婦人から篠崎由紀さん、NP T再検討会議の行動に参加された彦根共同法律事務所の岡村庸靖さん、辺野古での基地建設反対のとりくみに参加されている角住さんが発言されました。それぞれの立場から力強く戦争法反対を訴え会場からは共感と連帯の拍手が沸き起こりました。

集会には各界からメッセージが寄せられました。三井寺長吏・福家英明さん、滋賀県生活協同組合連合会会長・大塚光子さん、米原市長・平尾道雄さん、湖南市長・谷畑英吾さん、甲賀市長・中嶋武嗣さん、日野町長・藤澤直広さんからいただきました。

閉会のあいさつには呼びかけ人を代表して滋賀県労連・瀧上正昭議長が立ち、行動提起として①街頭宣伝②学習③国会議員・市町の議員への要請をしようと訴えました。

デモはパルコ前まで行いました。会場では173,419円の募金が集まりました。

愛知大集会に4000人

愛知弁護士会は14日、名古屋市内で「集団的自衛権行使のための違憲立法に反対する愛知大集会」を開催し、4000人以上の市民が参加しました。

開会あいさつで実行委員長の村橋泰志弁護士は「法案は憲法を壊すもの。外国の戦争に巻き込まれる法案は絶対に認めるわけにはいかない」と述べました。県弁護士会の川上明彦会長は「弁護士は市民の人権を守る使命がある。戦争は人権侵害の最大のもの。集団的自衛権行使に反対する」と述べました。

集会では「政治、信条、立場の違いを超え、違憲立法阻止の声をあげ、ともに立ちあがる」との宣言を採択。集会の後、参加者は市内をパレードしました。



国会前

座り込み行動1200人！

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は15日から国会前で座り込みを開始。初日はのべ1200人が参加しました。

「違憲な戦争法案は撤回を」の声次々

◆憲法審査会公聴会 6人中5人「違憲」

衆院憲法審査会が15日、高知市で開いた公聴会では戦争法案（安全保障関連法案）について、一般公募で選ばれた市民ら6人のうち5人が「違憲」と指摘しました。「違憲」と発言したのは政党が発言者として推薦した高知大准教授・岡田健一郎さん（民主党推薦）、高知自治労連執行委員長・筒井敬二さん（共産党推薦）と政党とは関係なく公募で選ばれた自営業、主婦、翻訳家の3人。合憲と発言したのは高知県知事の尾崎正直氏（自民党推薦）のみでした。主婦の竹田さんは「憲法を守らなければならないのは権力者側だ」「立憲主義をしっかりと勉強しなおしてください」と求めました。

◆参考人学者2人が会見「直ちに撤回を」

衆院憲法審査会で戦争法案を「憲法違反」と明言した長谷部恭男・早稲田大学教授と小林節・慶応大学名誉教授は記者会見を行い、法案や政府の主張は論理破綻しているとして「数多くの重大欠陥がある法案はただちに撤回すべきだ」と表明しました。

◆新劇人会議 「戦争立法に反対」声明に36団体が賛同

演劇人でつくる「安保体制打破 新劇人会議」は国会内で会見し、同会議の声明「憲法9条を壊す『戦争立法』=平和安全法制整備法案・国際平和支援法案に反対します」に劇団や演劇団体など36団体（第1次集約分）から賛同が寄せられたと発表。演劇関係団体が記者会見で政治的課題について共同で反対の意思表示をするのは「60年安保闘争以来のこと」ということです。

◆学者2700人 記者会見「強い憤り」

「安全保障関連法案に反対する学者の会」は、15日記者会見を行い、「『戦争する国』へすすむ安全保障関連法案に反対します」のアピール（学者61人が呼びかけ）への賛同者は、学者2678人、市民1819人に上ったことを公表しました。発起人の佐藤学・学習院大学教授は「わずか3日間で急速に広がった。違憲性のある法案が国会で審議されること自体に強い憤りを感じる」と述べました。

憲法9条 ふたたびノーベル平和賞ノミネート

「憲法9条を保持する日本国民」が2015年度のノーベル平和賞の候補として再び登録された。これを受けて、「憲法9条にノーベル平和賞を」実行委員会（神奈川県相模原市）は6月10日に声明を発表。政府が戦争のできる国をめざしている今こそ「この憲法の意義を改めて確認し、これを守り、世界に広めるべき」と訴えている。

声明は、「憲法破壊の危機的状況」にあると指摘。安倍内閣が進める「安保関連法案」は多くの憲法学者が「違憲」と指摘しており、「戦後の民主主義を根底から覆すもの」と批判した。集団的自衛権の行使を容認した昨年の閣議決定と安保関連法案の撤回を求めている。

さらに「真の平和主義に立つ憲法をこの機会に読み直し、一人一人が主権者として、非暴力に徹し世界に先駆けて世界平和を実現しよう」と呼び掛けている。（6/13付連合通信隔日版より）

全労連作成ブックカバー HPでダウンロード開始



全労連は文庫本サイズ（A4）のブックカバーを作成。「かわいい」と評判です。全労連ホームページからダウンロードできます。印刷してご活用ください。（☆裏面は平和委員会の漫画です↓）

安保法制の危険な中身



ブックカバーとしてご利用ください。印刷してご活用ください。全労連ホームページからダウンロード開始。印刷してご活用ください。全労連ホームページからダウンロード開始。